

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	書道 I	2	1年	11・12・13・14HR

使用教科書	副教材等
書道 I (東京書籍)	なし

科目の目標
<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨
<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解している。</li> <li>・書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け付け、表している。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

評価方法
<p>ア 授業に取り組む姿勢 イ 作品 ウ ワークシート等の記入内容 エ 提出物の内容 などをもとに総合的に評価する。</p>

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	書道入門	書写から書道へ 用具用材・姿勢と執筆法 漢字の成立と変遷	中学校国語科書写からの接続、書道の学習の仕方を理解する。 用具用材の取り扱い方、姿勢と執筆法を理解する。 五書体の成立と変遷、特徴を理解する。	○		○
5	漢字の書(篆刻)	篆刻と落款 落款を刻す	篆書・篆刻について理解している。 立体表現における表現効果や用具・用材との関わりを理解している。	○		○
6	漢字の書(楷書)	古典臨書 「九成宮醜泉銘」 「孔子廟堂碑」 「自書告身」 「牛嶽造像記」	古典の書体や書風に即した用筆・運筆ができる。 古典の美を感じ、楷書の用筆法(直筆・側筆・露鋒・藏鋒)、構成法(背勢・向勢・円筆・方筆)を理解している。 古典の線質、字形や構成を生かした表現をすることができる。	○		○
7		創作 古典を生かそう 鑑賞	書を構成する要素や表現効果、風趣を感じ取り、言葉で表現することができる。	○	○	○
9	漢字の書(行書)	行書の特長 古典臨書 「蘭亭序」 「風信帖」	行書の特徴、楷書との違いを理解している。 行書の基本的な用筆・運筆ができる。 古典の書体や書風に即した用筆・運筆ができる。 表現効果(墨の潤濁・文字の大小・線の肥瘦・紙面構成・気脈の貫通)を意識して、作品を制作することができる。	○		○
10		創作 古典を生かそう 鑑賞	書を構成する要素や表現効果、風趣を感じ取り、言葉で表現することができる。	○	○	○
11	仮名の書	仮名の成立 仮名を書く準備 単体・変体仮名・連綿 古筆の臨書 「高野切第三種」	仮名の成立について理解している。 仮名の基本的な用筆・運筆法を身につけている。 線質や字形を生かした表現の技能を身につけている。 古筆の美しさを感じ取り、仮名の基本的な用筆・運筆の技能を身につけている。 意図に基づいた表現法を構想し、効果的な表現の技能を身につけている。	○		○
12		鑑賞	書を構成する要素や表現効果、風趣を感じ取り、言葉で表現することができる。		○	○
1	漢字仮名交じりの書	漢字仮名交じりの書の変遷 古典を生かした表現 線による表現の広がり 用具用材による表現 紙面構成	漢字仮名交じりの書の成立について理解している。 用筆・運筆法と表現との関わりを理解し、効果的に表現することができる。 漢字と仮名の調和した字形、大きさ、線質、全体の構成について構想し工夫している。 効果的な全体の構成を構想し工夫することができる。 漢字仮名交じりの書の名筆のよさや美しさを感じ取り、作品の価値や生活における効用について考え、味わって捉えることができる。 自らの意図に基づいて、字形、用筆、全体の構成を工夫した作品を創作することができる。	○	○	○
2		創作 言葉と書を調和させよう 鑑賞	書を構成する要素や表現効果、風趣を感じ取り、言葉で表現することができる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	音楽 I	2	1年	芸術音楽 I 選択者

使用教科書	副教材等
『高校生の音楽①』教育芸術社	

1 科目の目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。  
 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。  
 (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。  
 (3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 評価の観点とその趣旨

①	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
②	思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を覚識し、それらの働きを感受しながら、覚識したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。
③	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3 評価方法

ア 取組みの観察 ワークシート等への記述内容	イ 演奏、作品の内容 エ 提出物の内容	アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。
---------------------------	------------------------	---------------------------

4 学習計画

学期	月	題材名	領域	項目	使用教材項目	題材の学習目標	評価の観点 (特に重視するものに○)		
							①	②	③
1 学期	4	発声・合唱	表現	歌唱	校歌、翼をください	・バランスのよい姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方を理解する ・曲のイメージをもち、曲想と歌詞との関わりや旋律の特徴、言葉の抑揚を理解して、表現を創意工夫して歌う	○	○	○
		リコーダー		器楽	木星	・管楽器のしくみを理解する ・曲想とリコーダーの音色や奏法との関わりを理解する ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する	○	○	○
		リズム・アンサンブル		器楽	クラッピング・カルテット第1番	・音符や休符の長さを意識してリズムを正確に打ち、強弱の変化や曲の構造を理解するとともに、リズムアンサンブルの表現を創意工夫して演奏する	○	○	○
		創作表現		創作	リズムアンサンブルをつくらう	・リズムパターンを考え、手拍子やさまざまな打楽器の組み合わせや、強弱やアクセント、反復する部分を考えて、4パートからなるリズムアンサンブルをグループでつくる	○	○	○
		日本語の歌曲		歌唱	この道 さびしいカシの木	・日本語の発音の特徴を知り、母音や子音の響きについて学ぶとともに、歌詞の内容を理解し、強弱などに注意して曲にふさわしい表現を創意工夫して歌う	○	○	○
		世界のさまざまな音楽		鑑賞	ジャワ・ガムラン	・アジアを含む世界の諸民族とその背景との関わりを学び、多様な価値を感じ取る	○	○	○
2 学期	9	ヴァイオリン	表現	器楽	カン きらきら星	・ヴァイオリンの仕組みについて理解する ・弦楽器表現に必要な奏法技能を身に、曲想に合った表現について考えることができる ・表現技法が曲にもたらす効果について理解し、演奏する	○		○
		物語と音楽の関わり		鑑賞	魔法使いの弟子	・作品に影響を与えたゲーテの詩『魔法使いの弟子』を読み、情景を思い浮かべながら曲を鑑賞する ・登場する人や物、物語のシーンがどのように音楽で表現されているかについて、考察する		○	○
		ギター		器楽	練習曲 いつも何度でも	・楽器のしくみについて理解する ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などに留意して演奏し、曲想に合った表現について考える	○	○	○
		イタリア語・ドイツ語・フランス語の歌		歌唱	サンタルチア 野ばら おおジャンゼリゼ	・イタリア語やドイツ語の発音の特徴を捉え、リズムと旋律の関わりや歌詞とリズムとの関わりを理解するとともに曲の雰囲気合う表現を創意工夫して歌う	○	○	○
		オペラ		歌唱	トゥーランドット	・オペラのアリアならではのダイナミックな歌い方を参考にして、歌詞の内容と曲の雰囲気に合う表現を創意工夫して歌う	○	○	○
		ミュージックパベル		器楽	クリスマスソング	・曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する ・アンサンブル活動に主体的・協働的に取り組む	○	○	○
3 学期	1	箏	表現	器楽	さくらさくら 六段の調 初段	・箏のしくみや流派の違いについて理解する ・楽譜の読み方や箏の構造、奏法について理解する ・旋律の動きや余韻の変化、間などを理解し、箏の特徴を生かして演奏できる	○	○	○
		日本の伝統音楽		鑑賞	能	・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞する。 様々な発声を試みて謡の一節を体験する。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	美術 I	2	1	

使用教科書	副教材等
「高校生の美術 1」 (光村出版)	なし

科目の目標
<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨
<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</li> <li>意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。</li> </ul>
<p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</li> </ul>
<p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>美術文化と主体的に関わり美術の幅広い表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

評価方法
<p>授業への取り組みの観察、ワークシートへの記述内容の確認・分析、ワークシートや作品などの提出物等の内容を観点別に総合して評価する。</p>

学習計画					評価の観点		
月	【題目】	領域	項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	①	②	③
4	ガイダンス			・美術 I の学習について 授業内容、必要な用具、材料などについて理解する			
4	彫造	表現	彫刻	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定されたテーマをもとにして、主体的に主題を生成できる。</li> <li>形態や量感、質感を意識して創造的な表現の構想を練ることができる。</li> <li>材料や用具の特性を作品に生かすことができる。</li> </ul>	○		
5		鑑賞		<ul style="list-style-type: none"> <li>造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めることができる。</li> </ul>		○	○
6	漫画表現	鑑賞		<ul style="list-style-type: none"> <li>美術の歴史や表現の特質について主体的に感じ取り、見方や感じ方を深めることができる。</li> </ul>		○	○
7		表現	絵画	<ul style="list-style-type: none"> <li>記号や線の持つ視覚的效果を理解できる。</li> <li>感情や感覚を表現する形について、創造的に構想を練ることができる。</li> </ul>	○		
9	美術史	鑑賞		<ul style="list-style-type: none"> <li>日本やアジア、西洋の美術の魅力を探り、美術の働きや社会との関わり方について主体的に考えることができる。</li> </ul>		○	○
	絵画技法演習	表現	絵画	<ul style="list-style-type: none"> <li>描画材料を生かし色彩などについて考え、表現することができる。</li> </ul>	○		○
10	読書感想画	表現	絵画	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書を通じて感じ取ったことや考えたことから主題を生成することができる。</li> <li>意図に応じて材料や用具の特性を生かして、主題を創造的に表すことができる。</li> </ul>	○		
11		鑑賞		<ul style="list-style-type: none"> <li>造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めることができる。</li> </ul>		○	○
12							
1	パッケージデザイン	表現	デザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>主題を効果的に表現するための構想を練ることができる。</li> <li>材料や道具の特性を生かして表現を追求できる。</li> </ul>	○		
2		鑑賞		<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる。</li> </ul>		○	○